

第28回 I C A 円卓会議参加報告

小川 千代子

1991年10月7-10日の4日間、オランダのハーレムで、第28回 I C A 国際文書館評議会円卓会議が開催された。オランダアーキビスト協会 (VAN) 創立百年の年とあって、オランダ国立公文書管理局を初めとする受入側の力の入れ方は大変なものだった。会期中にアーキビスト協会創立百年記念式典が組み込まれ、別の日にはオペラに繰り出すなど、会議以上にこれら「時間外活動」が忙しい円卓会議だったように思う。

会議のテーマは「文書館と財政」、今年46歳のオランダ国立公文書管理局長、ケテラー氏が精力的に纏め上げた基本報

告をもとに、これも同氏の提案による幾つもの話題が順次議論された。だが、基本的には、財政の問題が各国の国情に大きく左右されていることが明らかになっていくばかりであったのは否めない。筆者も日本には書類預かり企業が存在することを報告しては見たが、理解されたの

だろうか。

会議の始まりに、円卓会議事務局長でもあるケテラー氏は「アーキビストの皆様はよくご承知とは思いますが、口頭発表だけでは記録は残りません。皆さんの発言を記録にとどめるために発言要旨の記録が必要です。発言された方には事務局から用紙をお渡ししますので、これに発言の内容を書いて提出して下さい」との説明

があった。たくさん発言すると、たくさんの方の用紙を貰う。だが、発言者は記録してほしいものだけを書いて提出すれば良いらしい。隣にいたイタリアのピアは、幾度となく発言した

が、提出したのはほんの2-3枚のようだった。

会議最終日の夕刻には、恒例の「決議」採択が行われた。この決議文作成は大変だったらしい。きけば事務局は、前夜9時から1時まで討議し、翌朝も再び2時間ばかり集まって議論を重ね、その結果を纏めて、カルトレさん-I C



A事務局の筆頭秘書が、配布用の決議案をタイプして…議場で渡された文書は本当にまだコピーの温もりが残る、ホヤホヤだった。この辺、全史料協の大会と何だかよく似て、皆、本当に熱心に良くやっている。会議の席上、出された若干の訂正要求は、ほぼ全面的に採用された。決議文の論調は、会議の討論内容を全体として取り纏めたものなので、表現は抽象的だ。参集した全員の賛同を得るには、こういうやり方がきつと実際のなのだろう。

決議採択のほか、今回は円卓会議議長等の改選が行われ、92～95の次期4年の議長に、アルジェリアのトゥイリー氏、事務局長にアメリカのピーターソン氏、及び理事5名が選出され、筆者もこの一人となった。因みに、理事は、ギ

リシア、アイスランド、ケニア、オーストラリア、日本の5カ国から選出されている。

尚、会期中に行われたICA/SPA（各国アーキビスト協会代表者会議）にも全史料協代表として出席した。全史料協の現状について、会員数や入会条件、出版活動などについての説明、報告を行ったところ、これにたいし、ケスケメティ氏から、会報を送ってほしいという要望が出された（送付済み）。

92年はICA大会の年なので、円卓会議は開催されない。しかし、SPAはモンリオール大会の中で、2回の会合を計画している。「全史料協のコリーグとモンリオールで会いましょう！」と誰かが別れ際に声をかけてきた。

（国立公文書館）